

# 狛江市議団ニュース



日本共産党

発行：日本共産党狛江市議団　日本共産党狛江市議団の活動を紹介します。

連絡先：狛江市和泉本町1-1-5 団体室　☎3430-1177 (FAX兼用)

2024  
8・9



荒木てつ



岡村しん



宮坂良子



西村あつ子

# 4千市民が求めた 図書館住民投票

## 「市民の声を聞いてほしい」の願い届かず



約100名が傍聴した臨時議会＝5月15日、本会議場



賛成討論を行う西村議員

5月15日に開かれた臨時市議会で「図書館のあり方にに関する住民投票条例案」が審議され、傍聴席定数を大幅に超過する約100名の市民が第2会場も含め傍聴しました。

各党の討論の後、採決が行なわれ、日本共産党市議団4人（荒木てつ、岡村しん、宮坂良子、西村あつ子）とひらい2会場も含め傍聴しました。

住民投票条例案は、狛江で初めての市民の提案による条例案で、中央図書館を市の方針通り分割・移転して大人の本と子どもの本をバラバラにしてしまうのか、それとも大人も子どもと一緒に利用できる中央図書館を現在地で拡充

## 約100名の市民が傍聴

するのかを「市民の声を直接聞いて」決めようというものです。

署名が必要数の約3倍（有効署名4060筆）集まつたこ

## 自民、公明、分・維新、立憲、生活ネなどが反対し否決

条例制定を求める直接請求をするのかを「市民の声を直接聞いて」決めようというものです。

署名が必要数の約3倍（有効署名4060筆）集まつたこ

「市民の意見を聞かずに決めてしまった分割・移転」「住民投票を行ない広く市民の声を聞くべき」

### 日本共産党

### 西村議員が条例賛成の討論

自民党などは、市長選で松原市長が勝利したことや議会で予算が認められていること、現在地での拡充には多額の予算がかかることなどを反対理由にあげました。

これに対し日本共産党の西

村あつ子議員は、市長選挙ではこの問題だけが争点になつたわけではなく、当初市が示した案のなかには分割・移転とほぼ同額で現在地で拡充できるものであると反論。長年現在地での拡充を前提に市と

市民の協働ですすめられてきたのに、突然、市が市民に意見を聞かずに分割・移転を決めてしまったとして、住民投票を行ない広く市民の声を聞いて進めるべきと賛成討論を行ないました。

## 住民投票条例の制定を求め市民が意見陳述

### 条例制定請求代表者の小俣三郎さん

三郎さんは、「図書館分割は多くの市民に知られておらず市長選挙で決着すみなどとは言えない。だからこそ今回短期間に必要な数の約3倍の4千筆を超える署名が集まつた。その重みをしっかりと受け止めほしい」と述べ、林健彦

### 周東三和子さん

さんは、大人の本と子どもの本をバラバラにして400メートル離れた別の施設に配置することについて、「新しい図書館には子どもを連れてくるなどと言われているようだ」などの声を紹介し「分離でなく共存こそが必要」と訴えました。

### 立川節子さん

さんは、住民投票に則った市民参加・協働が行われないまま市が分割・移転方針を決定した」「多くの問題点が指摘されているのに市民との対話が拒否される」と呼びかけました。

### 民の権利であるとして「水と緑、そして住民投票の街狛江をともにつくりましょう」と呼びかけました。

2・3面に4人の議員の一般質問  
4面に猪方樋管への排水ポンプ建設や  
狛江駅北口の樹木伐採問題など

# 日本共産党市議団

第2回定例会  
5月29日～6月21日

教員の命守る  
「衛生委員会」

## 2校設置実現、さらに設置を

荒木議員の  
質問動画は  
コチラ



衛生委員会について文科省の担当官から説明を受ける=5月8日、吉良よし子参議院議員室



質問する荒木てつ議員

荒木議員は5月8日に、日本共産党の吉良よし子参議院議員室で、文科省の担当官に衛生委員会についての説明を受け、会計年度職員（従来の非常勤職員等）も含め教職員の命と健康を守るために学校への衛生委員会設置を求め、早速4月から一小と緑野小に設置されました。

設置された学校では「職場環境の改善に向けた職場巡視を行ない、産業医からの助言を受けている。緑野小では5月から産業医による面談を始めている。両校とも産業医の助言を全教職員で共有しています」（6月7日、教育部長答弁）。

### 教職員の増員が不可欠

荒木議員は、長年にわたりメンタルヘルス対策を行なっている川口市を視察。同市では産業医が公立学校すべてに配置され、2名のカウンセラーが年間約450回の巡回・希望相談を行っています。しかしそれでも最近は、教員不足による過重労働で、病気休職者が増えているとのことでした。

衛生委員会の充実と共に教職員の抜本的増員が必要です。荒木議員はこのほか、災害対策への支援、感震ブレーカー設置への支援など求めました。また西河原公民館の所作台がなくなってしまった経過をただし、文化的価値ある備品の管理改善を求めました。

図書館 住民投票  
条例直接請求署名

## 真摯に受け止めるべき

岡村議員の  
質問動画は  
コチラ

「市長選挙で結論が出ている?  
大阪では都構想推進の知事が当選したが、  
住民投票では都構想反対が多数」



質問する岡村しん議員

岡村議員はまた、2年前の市長選で市長が勝利したことを住民投票を実施しない理由としていることに対する「選挙はいくつもの公

いたというのが市長選の結果だ」と住民投票を否定しました。

### 地域センター図書室は午前から開館を

中央図書館の分割・移転工事で図書館の利用が最大2年余り制限されます。岡村議員は、地域センター図書室を夏休み以外も午前から開館するよう求めました。市民部長は「現時点では考えていらない」と答弁しました。

分割・移転を固定化せず、近い将来、文化拓くまち狛江にふさわしい図書館・公民館を

岡村議員は「市の計画は、大人の本と子どもの本をバラバラにする受け入れがたいもの。分割・移転を固定化するのでなく、近い将

住民投票の意義を認めながら、実施に背を向ける市長

岡村しん議員は、市長が「住民投票は間接民主主義を補完するもの」と住民投票の意義を認めながら「関係予算を議決いただいている」などとして住民投票の実施に「意義を見いだしがたい」としていることに対して、高いハードルを越えて提出された住民投票直接請求署名を「市長も議会も真摯に受け止めるべき」と述べました。

# 暮らし、教育、安全守る市政を

10月から福祉タクシー券廃止

## 新制度で助成額が大幅減額



宮坂議員の質問動画はコチラ

月2800円 ↓ 月1500円

「こんなに減らされでは移動できない、困る」



質問する宮坂良子議員

障害のある方の外出支援を目的に福祉タクシー券交付とガソリン助成が実施されていますが、市はこれを廃止統合し10月から月1500円の現金支給に変えようとしています。

福祉タクシー券は、上肢障がいと聴覚障がいを除く身体障がい者1・2級、愛の手帳1・2度の方等を対象に468名（2022年度）に交付されています（所得制限あり）。今回の制度変更で、対象者が身体障がい者3級まで拡大

されることは前進ですが、交付額が限度額月2800円から月1500円に大幅に減額されてしまします。宮坂議員は障がい者の方から「突然のことびっくりした。こんなに減らされでは移動できなくなる、困る」という相談があったとして、「なぜこれほど減額しなくてはならなかつたのか」とただしまして。

市は「令和4年度の利用実績では平均1846円となっており1500円と比べ大きく減額するものではない」「大幅に予算が増額にならないように調整した」と答えました。

宮坂議員は「平均より随分下げている。障がい者支援の立場に立った予算編成ではなかつた」と見直しを求めました。

「府中療育センターに行くのに7、8千円かかる。とても足らない」（身体障がい者の保護者）  
小平市は月4500円、14市平均2730円  
減額やめ元に戻して

狛江市と同じ限度額で交付している多摩14市で比較すると平均は2730円。最高は小平市で月4500円。3000円以上が9市あります。

身体障がい者1級の方の保護者からは「府中の療育センターに通っているので7、8千円もかかる。とても足りるものではない」「せ



めで今まで通り月2800円に戻してほし

い」という声が寄せられています。

宮坂議員

は「減額を見直すべき」と求めました。市長は「利用実績等を踏まえた金額なので今の時点で変更する考えはない」と答えました。

# 詐欺被害ゼロ、転落防止対策を



西村議員の質問動画はコチラ

特殊詐欺被害15件3500万円



質問する西村あつ子議員

高層マンションから幼児が転落する事故が起きています。

東京都は集合住宅に住む子育て世帯が、転落防止のための手すりを設置する際に上限30万円で2人3を補助しています。西村議員は、市は「ホームページなどでの周知が必要ではないか」とただしました。市は「ホームページ

で周知するほか関係部署でチラシを設置する」と答えました。名古屋市では昨年起きた転落事故を受け、転落防止策等の設置に上限20万円で1／2を補助する事業を行なっています。西村議員は、狛江市での新たな事業を求めていました。

西村議員は、市民に知られていないので「周知が必要ではないか」とただしました。市は「ホームページ

## 旧四小跡地利用について

### 体育館、温水プール等整備

策定予定です。



狛江市が3月に策定した「旧狛江第四小学校跡地利用にかかる土地利用方針」では体育館や温水プール、グランドの整備を掲げています。

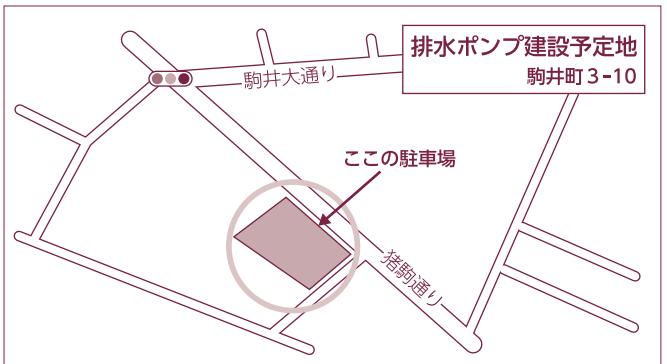
12月にかけて基本計画案を策定し、市民説明会やパブリックコメントを経て、今年度中に

西村議員は、計画に市民の声を広く反映すること、民間事業者が参入するPFによる整備は、事業者の破綻のリスクや扱い手の非正規化が生じる等の問題点があり採用しないよう求めました。また温水プールは長年の市民要望ですが維持経費等に多額の費用がかかるため、暮らしや福祉の予算に影響のないよう求めました。市長は「中期財政計画に従い適正な予算となるよう努める」と答えました。

年度38件8千万円、22年度33件4200万円、23年度15件3500万円などです。

西村あつ子議員は、詐欺被害を未然に防ぐ「自動通話録音機」の普及のための周知、調布市で取り組まれている「A-O-A-TO-HALL」（A-Oが詐欺のおそれのある電話を判別する）も参考にするよう求めました。

# 猪方樋管の 排水ポンプ 建設予定地が決まりました



2019年10月の水害での駒井町3-10付近。街路灯が光っているところが排水ポンプの建設予定地

市下水道課に問い合わせたところ市は「5月に持ち主からOKの返事をもらった」「設計がこれからなので現時点で工事開始時期について、はつきりしたことは言えない」「今回の件は市民説明会を開くか、何らかの方法で市民に知らせていく」と答えました。

猪方樋管の排水ポンプの建設予定地が決まりました。場所は駒井町3-10で左の写真と地図のところです。

が浸水するという大きな被害が出ました。

日本共産党市議団は、被災地域を訪問して要望を聞き市に被災者への支援を求めるとともに、「一度どこのような被害を出さないよう、被災者の方々とも力を合わせて、市や都や国に対し、多摩川の土砂の掘削や樋管への強力な排水ポンプの設置、そのための市への財政支援等をくりかえし求めきました。

そのなかで多摩川の土砂の

住宅地に雨水があふれてしまふため、閉じるのが遅れ、増水した多摩川の水が大量に住宅地に逆流して、448世帯（うち約7割が賃貸）

整備計画が決まりました。しかし、猪方樋管については整備用地が決まっておらず、日本共産党市議団は、用地の早期確保を市に求めてきました。排水ポンプが整備されると、5年前の台風豪雨と同じ程度の雨が降っても浸水被害が出ない計画となっています。建設予定地が決まったことは大きな前進です。日本共産党市議団はひきづき排水ポンプの早期実現へ頑張ります。

掘削も進み、都の財政支援も2・5%が25%へと10倍に拡充され、多摩川住宅近くの六郷樋管（用地確保済）と猪方通管への強力な排水ポンプの

# 浸水被害防止へ大きな前進

## 柳など11本の伐採計画

# 「緑の保全を」共産党 荒木議員が陳情賛成討論 自民、公明、分・維新、生活ネなど市民の陳情を否決

木議員)、ひらい議員が賛成しましたが、自民、公明、分・維新と、生活ネ(小木議員)、吉野議員が反対、否決されました。

「駄馬北」の噴水横の5本（シラカバなど）、シラカシなど）と泉の森会館通り（ヤナギ、サルスベリ、モミジなど）6本、計11本の樹木の伐採計画に対し、景観と緑を守ってと多数の市民・団体が中止を求め、若い人たちによるインターネット署名は500名近く集められました。日本共産党市議団も5月10日、伐採中止を市長に緊急要望しました。

市議会には市民3人から、伐採止と説明会開催を求める陳情がだされ6月14日の建設環境委員会で審議され、若い人も含め20人近い傍聴者が見守る中、市民から「駅前のケヤキ、シラカシ、ヤナギを含む緑の空間は貴重な柏江の財産」など保全を求める意見陳述がありました。しかし陳情は賛成少数で否決され、21日の本会議でも日本共産党の4人（喜木、岡村、宮坂、西村）と、立憲（高

てきており、景観や環境保全など検討されてこなかったこと、③伐採計画が十分市民に知らされなかつたこと、④夏場道路に直接日光が当ると路面温度が50度を超えるが木陰では約20度も下がり、温暖化対策としても緑を増やすことが求められる」と、⑤市の緑の基本計画では市長も「樹木や…農地や草地の存在は都市環境の保全…の観点から重要性を増してい」と述べ、担当部長も「緑をこれ以上減らさないようにする」とが課題」と答弁していることなどから、倒木の危険などやむを得ない場合を除き「できる限り樹木を伐採

# 柏江駅北口の樹木伐採に疑問の声

「景観と緑をまもってほしい」500人近くの署名



柏江駅北口。側道の樹木等が撤去された=8月5日撮影

せすに駆前空間を利用する方法を考える必要がある」と陳情への賛成討論を行ないました。

**3本は伐採中止に**